Ｍａｇｉｃｂｏｏｋｓ

真っ赤な誓い

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｍａｇｉｃｂｏｏｋｓ

【Ｎコード】
Ｎ９５６８Ｋ

【作者名】
真っ赤な誓い

【あらすじ】
ある日ひょんな事から曾爺ちゃんの倉を掃除する事になった八知流（やちながれ）。
その倉にある地下室で自律型魔導書製造番号Ｎｏ．１――シロガネを見つけてしまった。
紆余曲折を経て共同生活が始まるがシロガネを付け狙う男の魔の手や、シロガネの秘密が平穏を許さない。
魔法アクションストーリー！

八知流と魔導書シロガネ

吹きすさぶ冷たい風の中、安田拓人　（やすだたくと）　は屋根の上に居た。
拓人の爺ちゃん――しっかり言うならば曾爺ちゃんの家の屋根を直しにはるばる、新幹線でやって来ていた。
周りに民間は無い。
まあ、それは当たり前だ。
ここは、ド田舎だからだ。

◆

「次は倉の掃除でも頼もうかな？」
右腕にギブスを嵌め込んでいる拓人の爺ちゃんがニヤリと笑いながら言う。
「ふざけんなよ爺ちゃん。あの倉何年も掃除してねえだろうが！」
爺ちゃんは右腕を身体全体で抱え込むようにしながら苦悶の声を上げながら、
「う。拓人の声が……右腕に響くぅ～から倉の掃除を。やってくれるよな？　右腕骨折しているか弱い爺さんの頼みをむげにするなんて事は……」
拓人は、乱暴に叫んで倉に向かって歩き出す。
「分かった分かった分かりましたよ！」
家の横にちょこんとある小さな倉だ。
時間はかかるまい。
倉の前で立ち止まり、倉に立てかけてある箒とちりとりを見やる。
（用意が良いことで）
箒とちりとりを持って中を開ける。
もわっとした埃が倉中を舞う。
袖で口を押さえながら中へ足を踏み入れる。

訳の分からない水墨画や、刀　（偽物）　や懐中電灯に葛などなど。
溜め息を一つ吐いて倉を掃除し始めた。　それから三時間後。拓人は最初の甘い予想が見事に打ち砕かれた事を感じながら、倉にある全ての物を外に出し終わってすっきりした倉を見渡す。
と、ニメートル程の四角形の床が銀色の鉄で囲まれていた。
さながら地下室の入り口のように。
湧き上がる好奇心に素直に従って、入り口を開けてみる事にした。
開けやすくなっているようで周りの床に比べてこの入り口は少し高い所に位置していた。
割と簡単に開いて、中を見る。
石段があり、そこから先は良く見えない。
あの倉に懐中電灯があった事を思い出して急いで取ってくると中に足を踏み入れた。
石段を下っていくと、部屋に出た。
ライトを色々な所に当ててみた所、白い部屋のようだ。
何も置いてない。
「無機質な部屋だなぁ」
言いながら、
その真ん中に、ライトを当てる。
ぽつんと、白い本があった。
「本？」
立ちながら読む為なのか百五十センチ程の高さの書見台に立てかけてあったのだ。
「えっと。本……だよな？」
リアクションに困りながらも本を手にして――本が雷光のような光を放った。
「――くぁッ！？」
目に雷光のような光を放った所為で本を放り投げてしまった。
「きゃあっ！」

女の子の可愛らしい声と、どすんと尻餅をついたような音がした。
しかし、今の拓人はそんな音や声は聞いている余裕はなかった。
バダバタゴロゴロと、目を必死に手で押さえながら転げ回っているからである。
「目が、目がァァァァァ！！」
数分後拓人は、目が回復して来たのを感じて、目を開ける。
真っ暗だった。
ダラリ、と嫌な汗と半端でない程の焦りが這い上がってきた。
目が、目が見えない！？
口を意味もなくパクパクさせてから、
……。
暗闇だった事をすっかり忘れていた。
「は、ははは。良かった。本当に良かったぁ」
ほっと一息吐いてから無意識の内に放り投げてしまった懐中電灯を手探りで探し始める。
手を闇の中で無造作に振るい――何か柔らかい物が当たった直後。
「ひゃっ！」
女の子の焦ったような声が聞こえた。
もう一度、柔らかい物が当たった場所に手を移動させる。
むぎゅ、柔らかく温かい。
拓人の表情は興奮でも喜色でもなく、色々な感情が顔に出た結果、盛大に引きつっていた。
「え？　お前……誰だ！？」
柔らかく温かい物を触っている手を掴まれつねられた。
鈍い痛みを発したが、そんな小さな痛みは今の拓人には効かない。
思考は迷走に迷走を重ねて、青白くなった顔で力の限り叫んだ。
「ゆ、幽霊ッ！？」
「違うよ。私は魔導書シロガネ。登録魔法は白鉄　（しろがね）と白銀　（しろがね）　。うん。君は私の封印を解いちゃったし私の所有者に認定決定だね」

ま、魔導書？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9568k/

Ｍａｇｉｃｂｏｏｋｓ

2010年10月11日05時44分発行